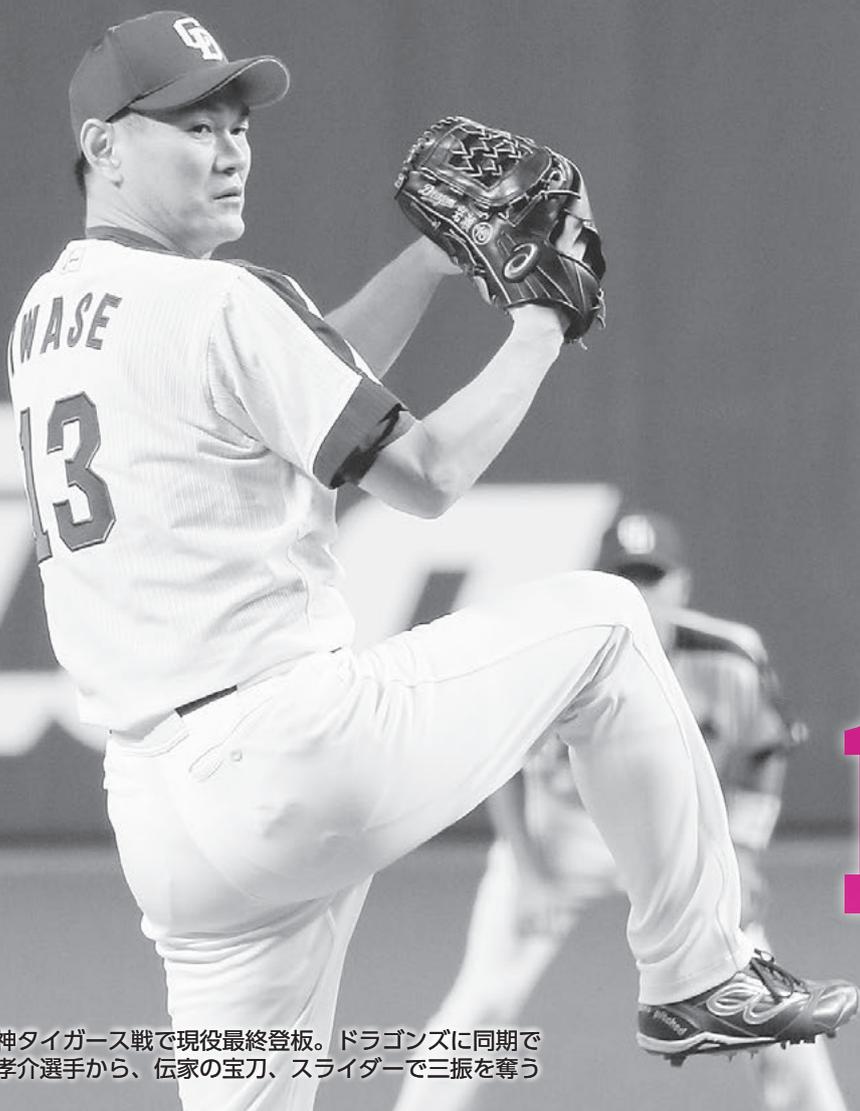


岩瀬仁紀選手が現役引退

夢を、ありがとう。

13



10月13日、阪神タイガース戦で現役最終登板。ドラゴンズに同期で入団した福留孝介選手から、伝家の宝刀、スライダーで三振を奪う

©中日ドラゴンズ

巨海町出身の中日ドラゴンズ・岩瀬仁紀選手が、今シーズン限りで現役を引退しました。数々のタイトルを獲得したほか、セーブ数や登板数のプロ野球記録を樹立。チームの5度のリーグ優勝と53年ぶりの日本一に貢献し、西尾市出身の大スターとして、私たちに夢や感動を与えてくれました。

スポーツ万能の少年時代 地元で伸ばした野球の才能

「プロになるなんて想像していなかったけど、野球がとにかく好きだったんだと思う。毎日野球漬けだった」。懐かしそうに岩瀬選手の少年時代を回想するのは、父・富美夫さんと母・道代さんです。1974年11月10日生まれ、岩瀬選手は、地元でごく普通の学校生活を送りながら、着々と野球の実力を高めました。

幼いころから富美夫さんと庭でキヤッチボールをしていたという岩瀬選手。寺津小学校2年生の時に少年硬式野球チーム「愛知衣浦リトルリーグ」に入団し、本格的に野球を始めます。身長が高くスポーツ万能で、寺津中学校の軟式野球部に所属していた頃には、とても球が速いピッチャーがいると市内で知られるようになります。

1990年に西尾東高校へ進学して野球部に入部。同学年で副主将を務めていた左右田修さん(住崎町)は、「中学生の頃に対戦した時、仁紀の球は速くて打てないと思った。野球の強豪校に進学すると思っていたから、入学式で見掛けた時はびっくり



小学6年生当時の岩瀬選手

した」と振り返ります。富美夫さんによると、岩瀬選手は寮生活がある高校への進学を希望しなかったとのこと。自宅から西尾東高校まで自転車で通い、野球部ではマイペースに練習を積み重ねました。「練習しろと言ったことは一度もない。高いレベルを見据え、何も言わなくても自分で地道に努力できる子だった」と、会生町出身で当時野球部の監督だった渡会芳久さん(岡崎市大和町)。基本的な練習をチームで行う他は、岩瀬選手が自ら投球の量などを決めていました。校内での上り坂のダッシュや、八ツ面山での階段上りが日課で、苦しい表情を見せるチームメイトには励ましの言葉を掛けていたそうです。

プロ入り後の活躍(抜粋)

- 1998年 ドラフト2位指名で中日ドラゴンズに入団
- 1999年 初登板、初勝利、初セーブ。最優秀中継ぎ投手を受賞
- 2000年 初先発&初先発勝利。最優秀中継ぎ投手を受賞
- 2003年 最優秀中継ぎ投手を受賞
- 2004年 アテネオリンピックに出場し銅メダルを獲得
- 2005年 4月の月間MVPを受賞。初ホールド。最多セーブ投手を受賞(46セーブで当時のプロ野球記録を更新)
- 2006年 最多セーブ投手を受賞
- 2007年 日本シリーズで継投による完全試合を達成し日本一の胸上げ投手に
- 2009年 最多セーブ投手を受賞
- 2010年 通算250セーブ。最多セーブ投手を受賞
- 2011年 プロ野球新記録の通算287セーブ
- 2012年 最多セーブ投手を受賞
- 2013年 日本人最多記録の通算382セーブ
- 2014年 プロ野球史上初の通算400セーブ
- 2017年 6月の月間MVPを受賞。プロ野球新記録の通算950試合登板。カムバック賞を受賞
- 2018年 プロ野球史上初の通算1,000試合登板



入団発表の際にご両親・星野監督と



©中日ドラゴンズ

リーグ連覇の祝賀会で森繁和コーチ(当時)にビールを掛けられる



©中日ドラゴンズ

前人未達の通算400セーブ達成

通算成績 ※青字はプロ野球記録

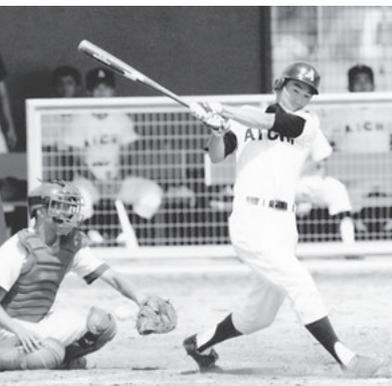
防御率…2.31 セーブ…407
 登板…1,002 ホールド…82
 勝利…59 奪三振…841
 敗北…51 与四死球…274

15年連続シーズン50試合登板(1999年～2013年)

11年連続シーズン20セーブ(2004年～2014年)

9年連続シーズン30セーブ(2005年～2013年)

オールスターゲーム出場10回



大学時代の岩瀬選手(右)

投げるだけでなく打つ能力も高かった岩瀬選手。打力が評価されて1年生の夏に早くもレギュラーに定着し、秋以降は「4番ピッチャー」として投打に活躍しました。3年生の夏には、全国高校野球選手権愛知県大会2回戦の三好高校戦で、見事ノーヒットノーランを達成。「球場内がだんだんざわついていったのを覚えていいる」と道代さん。ご両親の目の前で快挙でした。また、なかなか点の取れなかったある試合でホームスチールを試み、アウトになったことがあったそうです。「無理しなくても良かったのと思ったが、秘めたる闘志、点を取って絶対に勝ちたいという強い気持ちを感じた」と渡会さん。高い意識と勝利へのこだわりを胸に、岩瀬選手は中心選手としてチームを引っ張り続けました。

高校卒業後は愛知大学に進学。外野手兼投手として愛知大学リーグ史上2位の通算124安打を放ちます。全日本チームに選出されるなど打者として注目されましたが、卒業後に入社したNTT東海では投手に専念。伝家の宝刀スライダーを習得するなど、実力をさらに伸ばしました。

プロ注目目の存在となった岩瀬選手は、社会人2年目の1998年にドラフト2位指名を受けて中日ドラゴンズに入団。現在、株式会社カミヤ電機(丁田町)で勤務する元中日ドラゴンズの野口茂樹さん(名古屋市中区)は、入団当初の岩瀬選手を見て「一見すると細身だけど、服を脱ぐと筋肉がしっかり付いていて体が強そう」と感じたそうです。主張の強い選手が多いプロの世界において、野口さんによると「まったく敵を作らない性格」という岩瀬選手。普段の穏やかな人柄からは想像できない鋭い投球で、打者を封じ込めます。

プロ1年目の1999年、星野仙一監督率いるドラゴンズは開幕から11連勝。勢いそのままにセ・リーグ優勝を果たします。19勝を挙げてリーグMVPに輝いた野口さんを筆頭に「投手王国」といわれた投手陣の一員として、岩瀬選手はリーグ最多の65試合に登板。最優秀中継ぎのタイトルを獲得し、チームとファンの信頼に応える活躍を見せました。



野口茂樹さん

プロ1年目から大活躍

日本一の守護神として 黄金期のチームを支える

球威のあるストリートと「視界から消える」と恐れられたスライダーを武器に、中継ぎとしてチームに欠かせない存在となった岩瀬選手。落合博満監督が指揮を執った2004年からは抑えに転向します。8年間でリーグ優勝4回、日本一1回と黄金期を迎えたチームの守護神に君臨。登板の準備がほぼ毎日必要で、けが多いといわれる中継ぎや抑えを務めながら、2013年まで15年連続で50試合以上に登板する鉄腕ぶりを発揮します。8年連続30セーブ以上を達成した2012年には、セ・リーグ史上最多の5度目となる最多セーブを獲得。2013年9月には通算382セーブとし、日米で活躍した佐々木浩さんを抜いて日本人最多セーブ記録を更新しました。数々のタイトルを獲得し、オリンピック代表に2度選出されるなど、プロ野球史上屈指の投手という評価を不動のものにしました。

けがからの復活 前人未到の大偉業へ

徹底的な自己管理と強靱な精神力で長年投げ続けてきた岩瀬選手でしたが、2014年8月にけがの影響で一軍登録を抹消されます。翌年は登板なし、2年ぶりに登板した2016年も防御率6点台でセーブなしと苦しみました。

しかし、プロ19年目の2017年に見事な復活を遂げます。3年ぶりに開幕1軍を果たし、中継ぎとして50試合に登板します。14試合を無失点で切り抜けた6月には、12年ぶりの月間MVPを受賞し、8月にはプロ野球史上歴代最多記録の950試合登板を達成。カムバック賞を受賞しました。

43歳で、前年に続き球界最年長選手として迎えた今シーズンは、48試合に登板。9月28日の阪神タイガース戦では、前人未到の通算1000試合登板を達成しました。10月2日に現役引退を表明し、10月13日、くしくも背番号13番と同じ日に行われた阪神タイガース戦で現役最終登板。福留選手からスライダーで三振を奪い、満員の客席から大歓声を受けました。「プロは不安定で保証のない世界。初めはとにかく一軍で投げて欲しいと願っていたが、ここまでやってくれた。心も体も切り替えを繰り返して大変だったと思う。ゆっくり休んでほしい」。ご両親が見守る中、ナゴヤドームのマウンドから降りた岩瀬選手。万雷の拍手と感動の涙に見送られ、20年に及ぶプロ野球の現役生活に別れを告げました。



◎中日ドラゴンズ
通算1,000試合登板を達成
試合後には笑みがこぼれた



53年ぶりのドラゴンズ日本一に
巨海町公民館で喜ぶ地元の方たち

地元の星を熱烈応援 西尾が勇気をもらった20年

岩瀬選手を地元から応援しようと1999年10月、巨海町の住民や西尾東高校の関係者などが会員となった「岩瀬仁紀後援会」が誕生しました。設立当初から副会長を務める岩瀬萬吉さん(巨海町)は「初めは3勝すること集まって祝勝会をやっていた。でも、しょっちゅう勝つからそのうちにやめちゃった」と当時を振り返ります。期待以上に大活躍する岩瀬選手を激励するため、後援会ではナゴヤドームはもちろん、沖繩キャンピングビジターの試合会場にも駆け付けました。「みんなにサインをくれ、優しく接してくれた。感謝の気持ちでいっぱい。寂しくなるね」と、萬吉さんは引退を惜しんでいました。岩瀬選手は2004年のアテネオリンピックでの活躍が認められ、2005年に西尾市スポーツ功労賞を受賞。プロ野球や国際試合で活躍し、西尾市民にたくさんの方々の勇気と感動を与えてくれました。



◎中日ドラゴンズ

同じく今シーズン限りで現役を引退する荒木雅博選手と共にグラウンドを一周する岩瀬選手

Interview 20年間お疲れさまでした



野口茂樹さん

中日ドラゴンズや読売ジャイアンツで活躍。リーグMVPや最優秀防御率など数多くのタイトルを獲得した名左腕

ブルペンで打席に立って岩瀬の球を見たことがあるけど、左打者は打てないと感じるすごい球でした。20年の中継ぎや抑えを続けるのは相当きついし、そんなピッチャーは他にいない。引退して心も体も反動がくると思います。今はゆっくり休んでください。



左右田修さん

西尾東高校で岩瀬選手とチームメート。帰り道も同じ。3年生時は副主将を務め、2番ショートで活躍

2年生の時の新人戦で東邦高校にサヨナラ負けしたのがとても悔しい思い出です。同級生がプロで投げているのは不思議な感じだったけど、活躍していることをメディアで目にするたびに勇気や元気をもらいました。第二の人生でも活躍を願っています。



渡会芳久さん

岩瀬選手が在籍した当時の西尾東高校野球部で監督を務める。現在の趣味は高校野球の観戦

高校時代から能力が高いことは分かっていたけど、これほど素晴らしい成績をプロで残すとは想像していませんでした。練習でブルペン投球をあまりせず、肩を消耗しなかったことがけがの少なさにつながったかな。20年間お疲れさまでした。よくやったと思います。



大久保森尋くん・岡田琉希くん(吉良町)
現役最終登板をナゴヤドームで観戦

黄金時代を支えてくれてありがとうございました(森尋くん)。これからもドラゴンズのために活躍してください(琉希くん)。

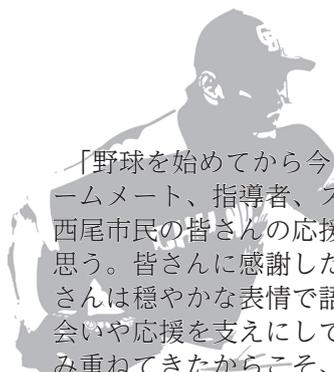


神尾明星さん(今川町)

名城大学2年生で硬式野球部に所属。投手。西尾東高校3年生時に、第98回全国高校野球選手権愛知県大会でベスト4に進出。エースで3番バッターとして快進撃をけん引

一体感のある野球に憧れて西尾東高校に進学しました。岩瀬選手の一学年後輩だった寺澤康明監督から「岩瀬選手はすごく走っていたぞ」と言われ、練習のモチベーションが上がったのを覚えています。子どもの頃に見た岩瀬選手の変化の大きいスライダ―を、いつか自分も投げたくて練習中です。大学の監督は岩瀬選手の社会人時代の監督でもあり、縁を感じます。自信のあるストレートのコントロールをもっと磨いて、来春のリーグ戦で勝ち投手になることが今の目標。もし岩瀬選手に会えるなら、体をケアする方法を聞いてみたいです。

努力を積み重ね、投げ続けた20年



「野球を始めてから今まで周囲の人に恵まれた。チームメート、指導者、スタッフとの出会い、そして西尾市民の皆さんの応援があったから活躍できたと思う。皆さんに感謝したい」。岩瀬選手の父・富美夫さんは穏やかな表情で語ってくれました。多くの出会いや応援を支えにして、たゆまぬ努力をずっと積み重ねてきたからこそ、岩瀬選手は厳しいプロの世界で一流の成績を20年も残し続けることができたのではないのでしょうか。今回話を聞いた皆さん誰もが、

「どんな時も地道に努力し続ける」岩瀬選手の姿を教えてくださいました。

華やかで注目度が高いプロ野球選手として活躍する岩瀬選手は、西尾市民の誇りであり、たくさんの勇気や元気、感動、そして夢を与えてくれる存在でした。引退会見では、将来的に指導者になりたいという希望を語った岩瀬選手。いつの日かもう一度ユニフォームを着て、私たちに夢の続きを見させてくれることでしょうか。